

般若寺

反戦の思い、受け継いで

「長谷川テル訪問記念の碑」除幕式

奈良女子大学在学中に国際補助語のエスペラントを学び、反戦を訴え続けた活動家、長谷川テル（1912-1947年）を顕彰しようと、奈良・長谷川テル顕彰の会（宮城恭子会長）は30日、在学中にテルが訪れた奈良市般若寺町の般若寺で、「訪問記念の碑」の除幕式を行った。

91年前の4月30日に長谷川テルは学友と同寺を訪問。ヤマブキが咲き乱れる境内で閉塞的な社会と闘うことを誓い合ったという。その後、中国人の夫と中国へ渡り抗日反戦活動を続けたが、34歳の若さで亡くなった。

記念碑建立は2017年に発足した同会が6年かけて計画。奈良女子大の卒業生である彫刻家の坂口紀代美さんに制作を依頼した。



除幕式であいさつをする制作者の坂口紀代美さん＝30日、奈良市般若寺町の般若寺

坂口さんは「山吹燃ゆる」と題して白御影石とヤマブキの花でテルの心の熱さや深さを表現。石にはテルの平和への決意が刻まれている。坂口さんは除幕式で、「テルさんの平和への願いがヤマブキに込められて般

若寺に開花しています」とあいさつした。

除幕式では、工藤良任住職やテルの長女の長谷川暁子さんもスピーチを行い、最後は参加者全員がヤマブキを献花して記念碑の完成を祝った。